

令和2年度 授業改善プラン

教科		現状と課題	具体的な方策
国語	1年	情報を整理し、設定された課題に沿った文章を書く力が不足している。	習熟度に合わせてひな型に自分の考えや意見を書き込む練習をさせる。
	2年	書く観点において、正しい日本語を正しく使用する力が未熟なところが見られる。	モジュールとして、新聞記事など正しい日本語の文章を書き写す活動をモジュールとして行う。
	3年	情報を読み取り、自分なりに考えることができている。その反面、自分の考えを分かりやすく伝える文章を書くことに関して課題が残る。	写真を文章で説明したり、批評文や意見文など、文章を書く学習活動を多く取り入れる。また、自分の書いた文章を推敲する習慣を身につける。
社会	1年	学習に対しての意欲にややばらつきが見られる。そのため、基礎的な内容が定着しにくい生徒と意欲学力ともに高く、応用的な課題を必要とする生徒が混在している。	より、意欲を引き出す学習に取り組んでいく。また、生徒が能動的に活動できる機会を多く用意し、それぞれの課題を解決できる取り組みを行う。
	2年	意欲的に取り組み、知識の定着という面では多くの生徒が昨年に比べ伸びている。反面、既存の知識をつなげたり、資料から読み取れたことを適切に表現するという点については今後の課題である。	既存の知識から答えを導き出せるような発問を工夫し、知識をより深めるようにする。授業用のワークシートにおいて、資料を読み取り文章化する練習をしているが、さらに丁寧に指導していく。
	3年	用語辞典のような知識の習得で満足している生徒が多い。得られた知識の活用方法・利用方法が分かっていないと考えられる。	プリントを利用し、物事のつながりや出来事の広がりをつかませるように指導を工夫すると同時に、毎時間復習テストを行い、知識の定着と資料活用能力の育成を図る。
数学	1年	基礎学力の定着が課題といえる生徒の割合が多い反面、発展的な問題にも意欲的に取り組む生徒もみられる。	授業や朝学習を利用し、スパイラル学習を通して、復習の時間を充実させる。また、意欲的な生徒に対しては難易度の高い問題を提供し挑戦させる。
	2年	意欲的に取り組む姿勢があり、知識・技能の向上が見られる。反面、学び残しのある生徒がいることも事実である。学びの個別化を図り、基礎基本の習得、思考判断力の向上を目指す必要がある。	基礎基本については、スパイラル学習、個別指導を通して定着を図る。思考判断力の向上については、複数の解き方がある課題、解が複数ある課題、発展的な課題等を通して向上を図る。
	3年	基本的な知識の定着が弱く、わかっているつもりでわかっていないことが多々みられる。	授業、朝学習、テスト等のあらゆる機会を活かし、既習の学習内容を復習していく。
理科	1年	基礎的・基本的な科学の知識が不足している生徒が見られる。基礎的な科学の知識を身につけている生徒もいるが、そこから実際の生活に結びつけて考えたり、応用する力が身につけていない生徒が多く見られる。	小テストを取り入れながら、学習に対する基本的な態度を身につけ、基礎的な科学の知識の獲得を目指す。また、実際の生活の中にある科学に結びつけた発問を行い、科学的思考力の定着を目指していく。
	2年	科学的思考力について、自分の持っている知識を総合し科学的根拠に基づいて説明する力が不足している生徒が見られる。	自分の考えをノートに書く機会を増やし、さらに班やクラスでシェアする時間を設け、科学的根拠に基づいた説明ができる力を培う。
	3年	学年が上がるにつれて、授業に意欲的に取り組む生徒が増えた反面、1、2年生時の基礎学力が構築されておらず、点数や成績が伸び悩んでいる生徒がいる。	スパイラル学習を取り入れながら、学力の定着を図るとともに、2学期は1、2年生の内容の演習問題を取り扱うことで、さらなる学力の向上と学力の底上げに取り組んでいく。
音楽	1年	音楽的な見方を軸として楽曲を捉える力が不足している生徒が見られる。	音楽を形づくっている要素や用語・記号について、繰り返し学習し、定着させていく。
	2年	音楽を形づくっている要素を知覚できても、それがもたらす効果について発展的に考える力が不足している生徒が見られる。	楽曲の比較、表現方法の検討などを通して要素ごとの働きを認知させ、定着させていく。
	3年	根拠をもって楽曲を捉えたり、表現をしたりするために必要な読譜力や音楽を形作っている要素の知覚といった基礎が身につけていない生徒が見られる。	基礎を身につけるに当たって、苦手意識をもたないように、ワークシートや説明を分かりやすい内容とする。繰り返し学習し、定着させていく。
美術	1年	全体的に集中しよう、頑張ろうという意識が高い。黙々と真面目に授業を受けてはいるが、コロナ禍の影響もあり、基礎の定着が今一つで、技術面での遅れが見られる。	クロッキーやデッサンなど、観察する課題を多めに出し、目を鍛えていく必要がある。いかに観察が大事かを伝え、実践させていく。
	2年	全体的に友人同士でお互いアイデアを出し合い、楽しみながら制作を進めている。しかし、作品を完成させるという意識が弱い。できたところまでで満足してしまうところがある。	全体的に長期的な単元が主であるので、短期的な課題をできるだけ増やし、作品を完成させることにより達成感などを味わわせる。

	3年	全体的に意欲をもって取り組んでいるが、空間認識の面でやや不安が見られる。基本的な展開図などが理解できていない。	個々でデザインなどが異なるので、想像が困難な生徒には立体図を描き、理解できるまで説明する。
保体 (男)	1年	3ヶ月の臨時休業により、体力の低下が見られる。知識の理解、定着が不十分な生徒が多い。	熱中症や新型コロナウィルスに対する対策を最優先し、環境や体力に応じて、運動量を増やしていく。本時のねらいや流れ、各実技単元のポイント・やコツをていねいに説明する。保健や体育理論のキーワードを中心に、保健学習シートや保健学習カードで復習する。
	2年	理解力と集中力に差が生じている。	保健も体育実技でも、口頭での説明時には写真や図でも可視化をする。また、コロナ禍ではあるが、コミュニケーションを重視し、都度考えて表現させる。
	3年	3ヶ月の臨時休業により、体力の低下が見られる。知識を思考・判断・表現につなげていく力に個々の差がある。	熱中症や新型コロナウィルスに対する対策を最優先し、環境や体力に応じて、運動量を増やしていく。「学習カード」や「話し合い・発表活動」により、文字や言葉での表現活動を増やす。
保体 (女)	1年	意欲的に楽しみながら活動する生徒がほとんどである。お互いに協力するという面で、まだ一緒に過ごした期間が少ないため、浅い。授業の目標をはっきりと理解できていない生徒が若干名みられる。	授業のねらいを明確にし、本時の確認を確実に理解させる。(分からない点などはその時に確認するように伝える) 今までとは違う形の話し合い活動を行い、お互いの考えや意見を理解し学び合う姿勢を作っていく。
	2年	意欲的に楽しみながら活動する生徒がほとんどである。お互いに協力しながら活動することができる。授業の目標をはっきりと理解できていない生徒が若干名みられる。	授業のねらいを明確にし、本時の確認を確実に理解させる。(分からない点などはその時に確認するように伝える) 今までとは違う形の話し合い活動を行い、お互いの考えや意見を理解し学び合う姿勢を作っていく。
	3年	授業への取り組みに差が感じられる。知識・理解に関しては能力も高いが、思考・判断に関しては低い。特に体育実技面では与えられた課題に関する思考が、個人でも集団でも苦手であるように見られる。	コロナ禍ではあるが、コミュニケーションを重視し、都度考えて表現させること。
技術	1年	授業に集中し、作業も安全に配慮して取り組めている。期末考査で、例年より点数が低かった。知識の定着が課題である。	映像などを効果的に使い、生活との繋がりを意識し、作業でみせながら、ものづくりの考え方を身につけさせる。
	2年	授業に集中し、作業も安全に配慮して取り組めている。全体的に考えて学ぶ生徒が多い。作業に入っていく中で、生活と結びつけて学ぶことが課題である。	生活の繋がりを考えさせ、作業の中で個別の対応を行うことで、知識の定着を図る。
	3年	授業に集中し、作業も安全に配慮して取り組めている。期末考査の結果から基本的な部分は8割方理解している。できない子が分かる授業の展開が課題である。	生活との繋がりを意識し、映像などを用いて行い、知識の定着を図る。
家庭	1年	授業中は意欲的に取り組み、学習内容を自分の生活に生かそうとする姿勢が見られる。一方で、知識の定着に課題がある。	学習内容と生活のつながりが意識できるよう、映像や実物を用いた授業を行う。また、授業の中で、復習や小テストを行い、学習を繰り返すことで、知識の定着を図る。
	2年	昨年度に比べ、生活を科学的に捉える力が身についてきている。一方で、自分の考えを表現することに自信のない生徒が多い。	授業の中で、自分の考えを記入したり、発表したりする場を増やしていく。また、生徒が様々な角度から物事を考えられるように、発問のバリエーションを増やしていく。
	3年	学年が上がるにつれて、多くの生徒が、授業や課題に対して、真剣に丁寧に取り組むことができている。反面、学習内容と生活を結び付けて考えることが苦手な生徒もいる。	生活との結びつきが実感できるよう、映像を使つての説明やロールプレイングなどを用いた授業を行う。また、学習内容を自分事として捉えられるような発問を増やす。
英語	1年	話すこと・聞くことに関する関心は高く、授業での活動に意欲的に取り組んでいる。 一方、書くことに関しては自信のない生徒が多い。単語のスペルを覚えることや文の構造を理解する必要がある。	オーラルイントロダクションや音読を用い、音から正しい英語を定着させる。また、ペアやグループなどでの教え合いを行う。小テストやワークシート等を活用し、学び残しや学習の遅れを把握し、補習等に生かす。
	2年	書く力、読解力が未熟である。文の語順や構造を理解し、語彙力の定着を図る必要がある。	アクティブラーニングを取り入れながら、自主的に学習できる授業スタイルを確立し、学校と家庭、双方で学ぶ習慣をつけさせる。
	3年	現状 多くの生徒は、授業に対して意欲的・積極的に取り組んでいる一方で、意欲がありながらも成績に伸び悩む生徒もいる。また、苦手意識が高く、関心の低い生徒もいる。課題決定能力や情報処理能力に個人差が見られる。ALTとのperformanceテストで、準備したスピーチをすることはできるが、即興的な話のやり取りが苦手な生徒が多い。 課題 基本文を正確に書いたり、話すことが苦手である。また、話の流れをつかむことも苦手である。	・口頭練習を十分に行ってから書く練習につなげる。まとまった英文を読むときに読むポイントと時間と意識させる。small talkを取り入れることで、会話のパターン練習から自分なりに英語を話す練習に移行していく。